

平成28年度事業計画

当協会にとって、平成28年度は公益財団法人へ移行して5年目となる。また、博物館施設の経営形態の見直しが進む中、停止条件付で5年間（平成27～31年度）指定管理者の指定を受けた2年目にあたる。

平成27年度は、当協会の主力事業である大阪市立科学館の管理運営において、プラネタリウム事業の充実、常設展ならびに企画展「光とあかり」・サイエンスショー・講演会実施、スペシャルナイト「オーロラのひかりに包まれて」等もご評価いただき、来館者数は好調で、目標の年間70万人を達成する見込みである。

「博物館施設の地方独立行政法人化」に関しては、平成27年2月に、大阪市から基本プラン（素案）が市会に示された。議会での意見を踏まえ、大阪市において、新たに、博物館施策の基本方針である「ミュージアムビジョン」の策定を進めるとともに、「基本プラン（素案）」の改定を行っているところである。

このような状況の中、平成28年度は、平成28年6月に理事会・評議員会で審議予定の「経営計画（平成28～32年度）」の初年度にあたる。当協会では、日々の職員等の「基礎活動」に重点を置き、資料の収集・保管、および調査研究を背景に、基盤事業としての科学館の展示場の公開・プラネタリウムの投影、教育・普及活動を実施し、さらに科学館の外で行うアウトリーチ活動を展開し、協会目的である科学並びに科学技術の普及振興を図ることで、現在、作成中の「経営計画」に掲げる経営目標の達成を目指す。

このため、学芸活動の質をさらに高めることはもとより、お客さまサービスと運営効率を一層向上させるとともに、来館者にとって魅力的な科学館でのプログラムやイベントを企画する。一方、科学館外でも市民と接触する機会を増やすことにより、科学館来館者の増加と、将来のわが国の科学を担う次世代層の育成の一翼を担うことを目指す。

また、大阪市立科学館が、将来約10年にわたり寄与すべき方向と役割について、有識者会議において平成25年度に「科学を楽しむ文化の振興」を使命とする提言を受けた。平成28年度はその4年目にあたり、この使命の実現に向け、より一層取り組みを強化する。

なお、当協会が平成28年度、重点的に取り組む項目は以下の通りである。

○ 常設展第4次展示改装実現への調査

大型の特別展会場を所有しない大阪市立科学館にとって、常設展示場の充実、館の浮沈を左右する。平素の改良のほか、平成20年の第3次展示改装に続き、第4次展示改装に向けての資料収集や調査研究を進めていく。特に、学芸員による海外調査については、平成27年度に引き続き実施していく。

○ 企画展「化学と宮沢賢治」の実施

著名な童話作家・詩人であり、科学をモチーフにした作品も多い宮沢賢治について、生誕120周年を記念し、企画展「化学と宮沢賢治」を実施する。宮沢賢治の文学作品に出てくる化学用語に関する内容を展示するとともに、講演会を開催したり、ミニブック制作など関連事業も展開する。

○ プラネタリウム事業の充実

科学的専門性が高い学芸員等のスタッフが直接解説する生解説投影が高い評価を受けているのをうけ、その回数を年間100回以上拡充する。また、投影回数を1日7回から8・9回にする投影日を平成25～27年度は大幅に増やしたが、好評につき平成28年度も継続実施する。

一般向け番組は、平成22年12月より全編生解説の投影と、生解説と全天周映像ソフトを交えたもの2種類の投影プログラムを公開しているが、好評につき継続実施する。

全編生解説のプログラムについては、学芸員による独自制作とする。国内外の投影方法を広く調査するとともに、テレビ番組制作者などとの共同制作を通じて、学芸員の潜在力を高め、より一層、来館者に魅力のある事業の展開を目指す。

また全天周映像ソフトを交えた番組については、2作品を独自制作または翻訳し、他館での採用を目指してプロモーション活動を行う。一方で内外の優れたソフトも使用する。秋には企画展と連動し、宮沢賢治の小説を原作とした「銀河鉄道の夜ショート版」を投影する。

学習投影については、夏休みの短縮等、学校の授業期間に対応して実施する。

好評なファミリータイムについては、従来の土日祝に加え、学校休業期間の平日にも実施する。

○ アウトリーチ活動の充実

アウトリーチ活動については、宇宙関係のメニューを充実する。モバイルプラネタリウムにおいては、平成19年に導入し老朽化した投影機にかえて、星空の再現度が高くブランド力もある「メガスターCLASS」を新たに導入する。

また、国立天文台が開発した「4D2Uシアター」を新たにメニューに加える。これは、宇宙空間を自在に移動し、見学者があたかも自分が宇宙旅行をしているような感覚をもてる映像プログラムである。これにより狭いスペース、少人数、低予算での要請にも応じられるようになる。ほか天体観望会、講演会などの要請にも引き続き応えていく。

○ 市外へのPR活動の強化

京阪電車内吊り広告や近鉄駅構内のチラシ設置などにより、市外の利用者への積極的PRを行い、来館者の増加を図る。

○ 設備管理業務の民間委託化

協会職員2名の退職に伴い、設備管理業務を一部民間委託し、老朽化が進む設備の適切な維持管理を進めていく。

※参考資料

① 平成28年度 来館者目標 700,000人

(内訳)

- ・展示場 355,000人
- ・プラネタリウム 345,000人

② 平成28年度 一般向けプラネタリウム及びサイエンスショーテーマ一覧

期 間	プラネタリウムA	プラネタリウムB	サイエンスショー
28. 3. 3～5. 29	銀河の世界	星の誕生	まるくなる水のチカラ 水の表面張力
28. 6. 3～8. 31	火星・土星・冥王星ツアー	星空へのパスポート (海外・購入)	花火の科学、大実験!
28. 9. 1～11. 27	星空オールナイト	銀河鉄道の夜ショート版 (購入)	ふしぎな形にだまされる な!
28. 12. 2 ～29. 2. 26	オリオン座の秘密 ～星の誕生秘話～	ボイジャー太陽系脱出! (新作)	静電気なんて怖くない? !
29. 3. 2～3. 31	見えない宇宙のミステリー ～謎の光・X線をとらえろ～	10万年後の星空 (新作)	動く?動かない? チカラの実験!

※このほか「ファミリータイム」を土日祝日のほか、学校休業期間の平日にも各1回実施する。

1. 大阪市立科学館の管理運営業務受託事業(収入:223,658千円、支出:245,653千円)

大阪市立科学館の指定管理者として、その管理運営を行う。

<事業内容>

(1) 資料の収集・保管・調査研究

物理・化学・宇宙等とその応用分野に関し、資料の収集・保管ならびに調査研究を行う。

(2) 展示場の公開・管理

1) 展示場の公開を行う。

(4階:宇宙とその発見、3階:身近に化学、2階:おやこで科学、1階:電気とエネルギー)

2) 展示場が正常に機能するように、その保守管理を行う。

特に、参加型展示固有の故障対応については、引き続き迅速な展示品の修繕に努める。

3) 展示品の評価、ならびに資料収集等による展示品の改良を随時行う。

4) 学芸員など専門スタッフによるサイエンスショーを実施する。

5) ボランティアが展示案内やエキストラ実験ショーを実施する他、「サイエンスガイドの日」や「科学デモンストレーター祭」の日に一斉に参加する等、市民参画を促進する。

6) 企画展「化学と宮沢賢治」を実施する。

(3) 教育・普及事業

1) 未来の科学を担う人材の育成に資する「青少年のための科学の祭典」、「こどものためのジオカーニバル」を日本物理教育学会など他団体と連携して実施する。

2) 学校教育への支援のため、教職員向けの各種研修を行う。

3) 大阪市博物館協会と連携しての各種活動を行う。

大学生などの科学館利用を促進するため「キャンパスメンバーズ制度」を継続する。

その他、大阪市博物館協会並びに同協会が運営する各館と連携しつつ事業を実施する。

(4) 情報発信及び広報・宣伝事業

1) 出版事業のほか、ホームページ、電子メールマガジンを活用する。

2) 科学館の案内看板を整備し、事業案内チラシの発行を行う。

3) 学校団体に向けた説明会を実施するなど、利用促進活動を積極的に行う。

(5) 建物及び付属設備の維持保全事業

科学館の建物及び付属設備の維持保全業務を通して、その円滑な運用に努める。

2. 自主事業(収入:147,005千円、支出:143,977千円)

<事業内容>

(1) プラネタリウム事業(収入:140,760千円、支出:107,796千円)

1) 一般投影は、観覧者層の興味や時宜に応じて実施する。

2) 幼児とその保護者を対象にした「ファミリータイム」は実施日を拡大する。

3) 学習投影を引き続き実施する。

4) スペシャルナイトを引き続き実施して様々な興味関心の要請に応える、また実験的な投影を行う。

- 5) 番組で使用する映像ソフトは、原則、独自制作とする。制作したソフトは、他館での採用を目指してプロモーション活動を行う。
- 6) これら多彩なプログラムの広報については、地下鉄掲出ポスターやスマートフォン対応を含めたホームページなども活用しながら推進し、市民等の利用を促進する。

(2) 全天周映像普及事業(収入:300千円、支出:0千円)

オリジナル制作の「オーロラ」等、当協会で作成した映像ソフトを配給する。

(3) 普及啓発事業(収入:5,945千円、支出:31,283千円)

1) 独自事業

- ① 当協会発行の科学雑誌「月刊うちゅう」を編集、発行する。
- ② ボランティアによる展示場案内「サイエンスガイド」を引き続き実施する。
- ③ 夏休み科学教室や天体観望会などのイベント型教育普及事業を引き続き実施する。
- ④ アウトリーチ事業として、モバイルプラネタリウム・出張サイエンスショー・ワークショップなどを引き続き実施する。
- ⑤ 大型科学イベントのプロデュースや、科学普及事業のコンサルティングなどを引き続き実施する。
- ⑥ アウトリーチ事業のスタッフや、エキストラ実験ショーのボランティアスタッフを育成するための研修講座を実施する。
- ⑦ 来館者アンケートを実施する。
- ⑧ 学校との連携をさぐり、未来館校の中から来館可能性の高い学校に対し働きかけを行う。

2) 連携事業

- ① 他館、機関、企業、団体等との連携活動を積極的に推進する。
- ② また、周辺ホテル、大阪観光局、中之島ウエストプロモーション協議会、大阪PTA協議会、地域女性団体、近隣区役所、鉄道会社や旅行会社等に対し効果的な「プロモーション活動」を実施する。
- ③ 科学館友の会や市民が参画する各種の科学学習のサークル活動を支援する。
- ④ 日本IBM社によるジュニア科学クラブの科学教室、大阪管区気象台との気象イベント、芝浦工大とのロボット教室などのイベントを開催する。
- ⑤ 「光の饗宴」「中之島ウエスト冬物語」など大阪市の関連事業や、国立国際美術館での「企画展」など連携しての事業などを行う。

(4) 中之島科学研究所事業(収入:0千円、支出:4,898千円)

- ① 物理・化学・宇宙等とその応用分野に関する調査研究を行う。
- ② 展示品開発に関連した教育的・展示学的な調査研究を行う。
- ③ 理工系学芸員対象の展示研究会を開催し、わが国の展示活動の向上に貢献する。
- ④ その他の研究会等を積極的に開催し、研究所活動の維持・発展に努める。

3. 付随事業(収入:29,660千円、支出:28,544千円)

<事業内容>

(1) 売店(収入:29,660千円、支出:28,544千円)

科学館内売店を運営するほか、屋外テント内に自動販売機を設置する。